

平成 27 年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

該当者なし

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

知立山車文楽保存会・知立からくり保存会（愛知県知立市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

キンニャモニャ祭り実行委員会（島根県隠岐郡海士町）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

該当者なし

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

銚子はね太鼓保存会（千葉県銚子市）

地域伝統芸能奨励賞

一之瀬高橋の春駒保存会（山梨県甲州市）

祭り文化普及功労賞

傳 益瑤（水墨画家）

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

該当者なし

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

知立山車文楽保存会・知立からくり保存会（愛知県知立市）



知立まつり（知立神社の祭礼）は、1653 年（承応 2）から続いていると言われております。毎年 5 月 2 日・3 日に行われ、2 年に一度の本祭（ほんまつり）には、豪華な 5 輦（高さ約 7m、重さ約 5 トン）の山車が町内を巡行し、神社に奉納されます。この山車の上で三人遣いの文楽【写真上】やからくり人形芝居【写真下】が上演されます。山車の上で文楽を上演するのは非常に珍しく、約 270 年の歴史があります。現在では、4 輦の山車で「傾城阿波の鳴戸（けいせいあわのなると）」や「壺坂観音霊験記（つばさかかんのんれいげんき）」などが上演されています。また、山車からくりは浄瑠璃に合わせてからくり人形が芝居を演じるもので、全国的にも類例が少なく貴重です。平成 19 年には「平治合戦」を 94 年ぶりに復活上演しました。

一方、若い後継者を育てるために、知立市立竜北中学校に山車文楽部があり、保存会が指導を行っています。山車からくりは、県内の小中学校から多くの依頼を受けて訪問講座を行っています。両保存会は、山車文楽や山車からくりを保存継承するとともに後継者の育成にとりくみ、知立まつりの賑わいと地域の振興に大きく貢献しています。

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

キンニャモニャ祭り実行委員会（島根県隠岐郡海士町）



「キンニャモニャ祭り」は、島内外から参加者総勢 1,000 名を超える海士町最大の地域イベントです。「民謡キンニャモニャ」の誕生については多説ありますが、実在の人物である杉山松太郎が明治 10 年に勃発した西南戦争に従軍し、その地の唄（キンニョムニョ）をうつろに覚えて持ち帰った曲（菱浦港の機織唄）として歌い継がれたと言われています。当時は、山高帽子にステッキを持って「ひょっこりひょっこり」とひょうきんな踊りで皆を笑わせたとされ、現在では両手に「しゃもじ」を持って愉快地踊られています。

実行委員会は、「キンニャモニャ」で郷土愛を育み、次世代に継承保存し、かつ地域振興及び交流人口拡大をはかっています。「キンニャモニャ祭り」は、毎年 8 月第 4 土曜日に、地域芸能交流ステージやパレードを主体に、フィナーレを飾る迫力満点の水中&打上げ花火の競演も交えて、開催しています。実行委員会は、この祭りを企画・開催し、民謡「キンニャモニャ」をモチーフにして地域の活性化および、離島である地元の宣伝、地域振興に大きく貢献しています。

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

該当者なし

銚子はね太鼓保存会（千葉県銚子市）

江戸末期の元治元年（1864年）、銚子の町は未曾有のイワシの豊漁に沸きかえりました。人々はこれを祝い、海神への感謝を表す祭りを催しました。そこで、祭りを盛り上げる太鼓囃子を持ち合わせなかった人々は、漁師の祭りに相応しい、勇壮な太鼓踊りを考えだしました。

はね太鼓は非常に珍しい太鼓で、銚子市の無形文化財です。二人の打ち手が太鼓を担ぎ上げ、首とあばらで太鼓を支えながら打って跳ね、跳ねては回り、太鼓もろとも宙を舞います。極めつけは「ねかせ打ち」、担ぎ手の一人を抱え込み地に這わせ太鼓を打ちまわります。黒潮躍る海の男の力と技の太鼓で異彩さと勇壮さは見るものを圧倒します。

保存会は、昭和50年ころから郷土芸能として活躍を始めましたが、銚子市が昭和60年を観光元年と位置づけたことに呼応して、漁師町ならではの郷土芸能であるはね太鼓を通じて、銚子内外に積極的にアピールし、銚子観光PRに国内はもとより海外のイベントでも大活躍をしています。また、後進の育成に努め、熱心な普及活動を行っています。さらに、はね太鼓の新たな奏法を編み出すなど創作にも力を入れており、その力強いパフォーマンスは国内外に熱狂的人気を博していて、銚子のPRと地域の振興に大きく貢献しています。

地域伝統芸能奨励賞

一之瀬高橋の春駒保存会（山梨県甲州市）

山梨県は小正月の道祖神祭りが盛んな地ですが、その中で春駒を舞わすことで知られているのが「一之瀬高橋の春駒」です（国選択無形民俗文化財）。昭和42年にこの伝承が山梨県の無形民俗文化財に指定された時に保存会が結成されましたが、集落の過疎化が急激に進み、同保存会は平成4年に活動を停止し、春駒の伝承は途絶えました。

これを惜しんだ同地域出身者をはじめ第3者をも含めた一同の努力により、平成17年・19年に復活上演が行われ、また、平成20年には新たな保存会が再結成されました。今日、毎年1月14日に近い休日に、JR塩山駅前の古民家（重要文化財）等を祭場としてドウソウジン（道祖神祭り）を再興し、祭礼におけるウマオドリ（春駒）の上演を継続しています。

保存会のような活動は、地域に伝わる伝統芸能の保存継承と、それによる豊かな地域社会づくりに貢献するものであり、今後の活躍が期待されます。

祭り文化普及功労賞

傅 益瑤（水墨画家）

中国南京市に中国近代画壇の巨匠・傅抱石（ふほうせき）の第五子として生まれ、南京師範大学（中国古典文学専攻）卒業後、江蘇省国画院で絵画を学びました。後に南京博物院勤務し、中国美術史や理論の研究に従事し、1980年中国教育部派遣国費留学生として来日し、武蔵野美術大学大学院、東京芸術大学では、平山郁夫画伯に師事し、仏教美術を学びました。比叡山延暦寺、三千院、大本山永平寺等全国有名寺院の襖絵や障壁画の制作に取り組み、「倫雅美術奨励賞」（1990年）を受賞しました。

また、日本の祝祭文化に魅せられ、全国各地の祭りや伝統芸能を訪ね、描き続けています。その功により、（財）神道文化会より「神道文化奨励賞・特別賞」を授与され、20数年前から今日にいたるまで「日本の祭り絵展」を全国各地で開催しています。

最近では、2013年に石川県金沢市（しいの木迎賓館）、石川県七尾市（七尾美術館）にて、2014年は茨城県筑西市（しもだて美術館）、千葉県成田市（成田空港N A Aアートギャラリー）にて開催しました。